March 2020, Volume 22

MIRAI

Military - Industry - Research & Development activities
partnerships And International Network

防衛施設学会誌

特集
施設防護

レポート

海上自衛隊呉地方総監部・江田島地区の歴史的建造物

軍事遺産を歩く／旭浜トーチカ群（北海道広尾郡大樹町）

自衛隊ＯＢによる国際貢献／地雷・不発弾除去活動

巻頭言

法人化5年目を迎えて

今年2020年（令和2年）は、防衛施設学会が法人化されて早5年目の年となります。この度、令和初のMIRAI発行の運びとなりましたことを、まずは会員の皆様と慶びをともにいたしたいと思います。

さて、ご案内のとおり、当学会は1962年（昭和37年）に発足した防衛施設技術研究会を祖としております。爾来57年間にわたり営々とその活動が引き継がれ今日に至っています。

かく言う私も、昭和60年、六本木の旧防衛庁の大会議室で大学の卒業研究について発表したことを覚えています。広い会場ではありましたが、旧施設庁の技官や各幕僚監部の自衛官を中心とした聴衆もまばらで、演題によって入れ替わるといった感じでした。当時の発表はOHP。レタリングシートを使ったり、流行りだしたワードプロセッサで印字したものを切り貼りするなどして、少しでもスマートに見てもらおうと、図工の腕前が利く時代でした。発表者も、主として施設庁技官や防衛大学校の研究科学生と本科4年生で、会場内は発表者側の方が多勢であったように記憶しています。発表内容は各分野における基礎研究が多く、スクリーンが映えるように暗くした会場で研究発表を聞きながら「防衛施設」への還元を空想する。そうした個人の作業がそこにはありました。

それが今や、年次フォーラムと銘打ち、技術展示のブースを併設し来場者も600人を集め、200席を擁する発表会場で研究発表が行われています。高輝度のプロジェクターが投射する発表内容もごく当たり前のように洗練されています。何よりも、個々の発表内容はもちろん、各セッションとその総合体である発表会全体が「防衛施設技術」へ明快に指向するものとなっています。

また、法人会員の各企業と各種団体のお力添えを得てミリタリー・エンジニアリング・テクノフェアとして技術展示会を開催するほか、フォーラム及びフェアともに特別講演として毎回高名な講師をお迎えし、幅広い視野の醸成に力を頂いています。まさに学会が掲げる「産学官の連携による防衛施設技術の構築」の空間として成立し、多方面からの意見が交換され、また個々の研究や技術の進展に還元されるといったスキームがそこにあります。そして、今回第22号となる本学会誌MIRAIも、その内容、形ともに、とても充実したものとなりました。

MIRAI創刊号において初代会長の重村利幸先生（防衛大学校名誉教授）がこう述べておられます。

防衛施設は非常時においてその使命を果たしうるものでなければならず、そのため一般施設に比べ高い安全性と多様な機能を備えることが必要で、工学全般に加え広範多岐にわたる専門分野の知見や技術が必要である。この技術をまとめ上げていくことは容易ではないが、困難を乗り越え技術の革新と技術者の育成に努力することが肝要である。

初代会長が述べられたことは、学会の行動に、そして形としてしっかり具現化されていると感じます。まもなく防衛施設技術研究会から数えて創設60年（還暦）を迎える当学会も、今日においてなお進化し、そのベクトルは拡がりを持っています。

ここにあらためまして、これまで研究会そして学会の運営に当たられた諸先輩方のご尽力に敬意と謝意を表しますとともに、会員の皆さまにおかれては、今後ともご知見の結集とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

正寶　敏彦

防衛施設学会　監事

MIRAI

Military - Industry - Research & Development activities partnerships And International Network

表紙写真について

合州国空軍･格納庫（合州国空軍HPから転載）
https://www.af.mil/News/Photos/igphoto/2001510745/

合州国空軍･嘉手納基地
（道の駅かでな展望台から望む）

Special Features

72 施設防護

74 施設防護に対する防衛施設学会の取り組み

79 防護設計法の現状と課題

82 衝突に対する防護構造の継続的研究

87 書籍の紹介「不燃都市」
ー防空都市建設の世界的動向と我國の進路ー（3）

96 爆発と構造物の相互作用シミュレーションの最新技術
～ ジョージ・メイソン大学 Rainald Löhner特別教授による特別講演会を開催 ～

99 「衝突作用および爆発作用に関する評価技術と対策技術」講習会
～ 調査研究委員会における技術部会の活動成果として初めて実施 ～

Special report

101 海上自衛隊呉地方総監部・江田島地区の歴史的建造物
「海上自衛隊施設などの美しい歴史的建造物（呉地方総監部・江田島第一術科学校）」
防衛施設学会　歴史的建造物保存技術部会編（2008年9月）から転載

109 軍事遺産を歩く-2 旭浜トーチカ群（北海道広尾郡大樹町）

118 防衛省・自衛隊OBによる国際協力

Contribution

46 航空自衛隊施設職域の紹介

52 Greetings from
the Society of American Military Engineers (S.A.M.E.)
Japan Post in Okinawa.

55 沖縄返還地における埋設物を対象とした電磁探査の適用

62 飯場今昔（その2）

66 学生会員沖縄地区研修レポート
（1）防衛に対して教育の視点から貢献できることとは
（2）土木エンジニアから見た防衛施設
（3）防衛基地研修を通じて

一般社団法人防衛施設学会誌
2020.3　第22号

News

4　令和元年度定時総会を開催

6　METF2019
第13回ミリタリーエンジニアテクノフェアを開催
学会行事最多の750名の方々が来場

11　年次フォーラム2020
防衛省、BSKの後援を得て開催
600名のミリタリーエンジニアが市ヶ谷に集結

19　防衛施設学会と米国軍事技術者協会（SAME Japan Post）との連携

22　防衛施設学会見学会・レポート

30　学生会員沖縄地区研修
沖縄地区の自衛隊・米軍施設を実地研修
～ スカラーシップ制度創設に向けた取り組み ～

35　防衛施設 新技術情報 Vol.11 発刊

36　エネルギー技術部会におけるZEB化施設の視察について
～　我が国におけるZEB化施設の動向　～

44　防衛施設学会調査研究委員会の部会員の公募について

54　自衛隊施設の既設コンクリート構造物の調査・診断および補修マニュアルを発刊

Series

1　巻頭言

123　令和元年度（一社）防衛施設学会総会資料

132　催し物紹介

133　防衛施設学会出版物の紹介

134　METF&書籍紹介

135　読者から

137　編集部から

138　防衛施設学会詳細

145　入会申込

148　新規法人会員の紹介